

★去る11日に夏期一時金回答★ 昨年と同率の2.05ヶ月の回答！

大学「財政は大幅赤字、ベースアップ分の反映で手取り額は増える」

2020年の一時金大幅引き下げ以降、わずかずつでも毎年引き上げてきたことが、新理事会が掲げる「新生女子医大」に対する期待と今後の展望を教職員に与えてきた。この流れをストップすることが今後の人材確保・育成に影響しないのでしょうか？！



組合だより

2025/6/17

東京女子医大
労働組合

自らの要求実現と医療改善のために
貴方も労働組合へ加入しましょう！

みなさんの
加入を
まっけてます。



大学理事会の姿勢を変えさせるためには、労働組合を強く大きくすることが必要です！
貴方も組合に加入を！

6/11 付・夏期一時金回答

★ 全職員 月数 2.05ヶ月分

○平均支給額 全職 632,842 円

○平均賃金 全職 308,703 円

○支給者総数 3,498 名

○平均勤続年数 13.7 年

○平均年令 41.0 才

★4月採用者は寸志2万円支給
5月採用者は寸志1万円支給

【昨年度(2024年)回答】

全職員 2.05ヶ月

★ 夏期休暇

6/15～9/30の間に職員5日、
嘱託・医療錬士・研修医は3日
を付与。期間内での取得が困難
な場合は10/31まで取得可能

【女子医大の夏期一時金の推移】

2015年	2.35ヶ月＋扶養手当2ヶ月分
2016年	2.10ヶ月＋扶養手当2ヶ月分 2.00ヶ月＋扶養手当2ヶ月分
2017年	2.10ヶ月のみ 1.60ヶ月のみ
2018年	2.10ヶ月のみ 1.70ヶ月のみ
2019年	2.10ヶ月のみ 1.80ヶ月のみ
2020年	1.00ヶ月のみ
2021年	1.50ヶ月のみ
2022年	1.80ヶ月のみ
2023年	2.00ヶ月のみ
2024年	2.05ヶ月のみ

※2016～19年は上段が看護師の支給率
で下段が看護師以外の職種の支給率

【都内私立医大の夏期一時金回答】

慶応四谷	2.40ヶ月
順天堂	3.00ヶ月＋一律17,500円
東京医大	1.95ヶ月＋一律42,500円＋ 看護師・助手に31,000円の手当
日本医大	2.445ヶ月
杏林	2.30ヶ月＋一律30,000円

去る11日に大学理事会より夏期一時金回答が提示されましたが、その内容は昨年と同率の2.05カ月という回答でした。

大学当局は、回答理由を「令和6年度の収支差額は約85億円の赤字となり、前年度の64億円から21億円増える結果となった。医療収入は13億円増えたが、私学助成金の支給停止やコロナ関連の補助金終了が大きく影響している。昨年と同率の賞与支給となったが、4月からのベースアップ分が反映されるので、手取り金額は増えると考えている。厳しい財政状況の改善が急務であり、そのために4つの学内横断タスクフォースを設置して方策を検討している。その中で人材を育成・確保する観点から教職員の待遇改善も重要な課題と

して位置づけ、人事資源のタスクフォースを置いて検討を進めていく」と答弁しました。

対して労働組合は「昨年と同じ回答は残念である。確かにベースアップによって支給額の若干の増加はあると思うが、2000年の大幅引き下げ以降はわずかではあるが毎年引き上げてきた。その流れがストップしたことは残念である。多分多くの教職員も「今年も上がるのでは」との期待は大きかったと思うので、今回の回答は非常に残念であると受け止めているのではないかと。他大学との比較で言えば、年間5ヶ月というのが最低ラインであり、現在4・7ヶ月なので一気に上げるのは無理にしても、少しずつでも上げていくものだと期待していた。昨年は厳しい財政状況

の中でも年間0・4カ月も引き上げられたので、「大学も変わった」と受け止められ、そのため退職者数も大分抑えられたと聞いている。そういう意味で、今回の回答がせつなく良くなってきた学内の雰囲気を引き下げるのではないかと危惧する。理事会が一新され、厳しい財政状況の中でも一定の改善を行ってきたことに対する教職員の期待を裏切らないためにも、改めて月数の引き上げ等、回答の再検討をお願いしたい」と要求しました。

そもそもここまでの状況に陥ったのは旧理事会のずさんな運営にあるのは言うまでもありません

